

編集後記

私共の年間最大行事の一つである日本リハビリテーション医学会も終り、多くの感銘と焦りと闘志を感じながら、読者の大部分も来年、又は近い将来を目指して研究と実践の日日にもどって行かれた事と存じます。このような学会は参加後も疲れた感じがせずに、充実感のみが残り、快いものです。

今回の特集は「装具」ですが、通読して感じた事は、約10年前、新知識として迎え入れられたものが、この号ではすでに「コンベンショナル装具」と呼ばれている事で、空白の無い勉強の必要な事を暗示しているように思えます。福井氏は継手の変った使用法や新しいもの、さらにフィードバックについても述べ、種々の可能性について示唆しました。島津氏は困難な小児アライメント矯正用装具について、実に明快な説明をされ、考え方の一つの基本を示されたものと思います。武智氏は輻輳する装具の用語について、AAOSの例を引き、よりシステミックなものへの可能性

を示されたように思います。土肥氏の論文では、リウマチの変形の成因を理解すれば、それに立脚した各々の工夫の大切さを説いているように思います。川村氏の論文は、日常、患者に装具処方をする時役立つもので、価格改正が行なわれる度に、投稿していただきたいものです。

「研究と報告」では、葛葉氏ら、満足氏ら、堂前氏ら、の各々大変興味ある論文を投稿していただいた事に厚く御礼申し上げますと共に、この方達も含め、さらに多くの方々の御投稿を御待ちしております。今のところ、当誌への投稿論文の数は決して多い方ではなく、掲載の時期も比較的早い方です。

三好氏の「ミオパチーの筋電図」は、わかりやすく、EMGでも困難なこの分野の理解に役立つ事でしょう。

暑さに向います折から皆様の御自愛を御祈り致します。

(明石 謙)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
荻 島 秀 男
土 屋 弘 吉
横 山 巖
千 野 直 一

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 寿 栄 夫
小 野 啓 郎
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
沢 村 誠 志
杉 山 尚
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
平 方 義 信
福 井 圀 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
遠 藤 千 恵 子
小 川 孟
加 藤 一 郎
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
陳 慧 玉
土 屋 和 夫
松 村 秩
(以上五十音順、敬称略)

(細田、鹿島)

次号予告 (第6巻第8号)

特集 施設におけるリハビリテーション

リハビリテーションの立場からみた

施設の体系とその役割……………拓杏園 今 田 拓

中間施設におけるリハビリテーション

(ハーフウェイハウス)……………都養育院 古 川 ひろ子

老人ホームにおけるリハビリテーション

(実態調査を中心に)……………東大 山 口 明・他

療護施設におけるリハビリテーション…神奈川リハセンター 安 藤 徳 彦・他

座談会/肢体不自由児施設の現状と今後の課題……………横浜市大 大 川 嗣 雄・他

講座 筋・神経系の電気診断 (8)

(神経脊髄疾患、末梢神経損傷)……………慶応大学 千 野 直 一

一頁講座 リハビリテーション用語集 (2)……………都身障センター 寺 山 久 美 子